

“省エネルギー住宅”のすすめ

10月は「国際省エネルギー月間」

十月は「国際省エネルギー月間」です。

わが国をはじめアメリカ、イギリス、西ドイツ、カナダなど世界の主な石油消費国(二十か国)で構成する国際エネルギー機関(IEA)の決定によるもので、各国が足並みをそろえて石油の消費削減をはかるという国際的な省エネルギー運動です。今年がその第一回。エネルギーの効率的利用は、あらゆる面で推し進める必要がありますが、わたしたちの日常生活に最もかわりのある分野といえればやはり「住まいの省エネルギー」でしょう。

そこで「省エネ・ルック」ならぬ「省エネ・ハウス」のためのチエック・ポイントのいくつかを紹介しましょう。

省エネ住宅

新築や増改築をされる場合

建物の形は単純に

建物の形はできるだけ単純に、つまり「シンプル・ハウス」を基本にしましょう。複雑な形にするほど、熱が入りしやすくなり、それだけエネルギーの効率が悪くなります。

同じ床面積の建物でも、外気に接する壁、床、屋根の面積の多い少ないによって、熱の出入りが違ってきます。

たとえば、総二階建ての家は、同じ床面積の場合ですと、デコボコの家や、普通の平屋建ての家に比べて約二〇%外気との接触面積が少なくなり、それだけ熱の流入を抑えることができます。デコボコの平面より正方形に近

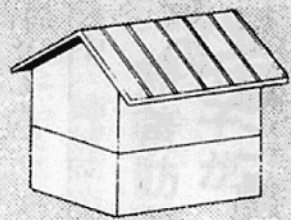
い方が、また平屋建てより二階建ての方が、省エネルギーの上で有利といえます。

自然の摂理を生かそう

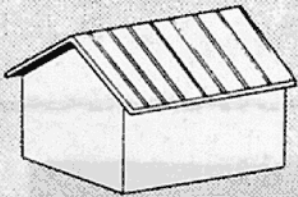
黒っぽい色が熱を吸収し、白っぽい色が熱を反射することは、よく知られています。

住宅でもこの性質を利用して、寒冷地では黒っぽい外装、温暖なところでは白っぽい仕上げにする

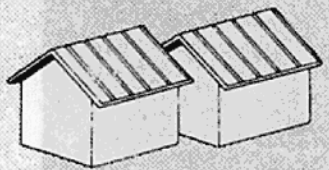
家の形によって外気に接する面積がこんなに違います。



床面積は同じとして
総二階を100とする



平屋建て 117



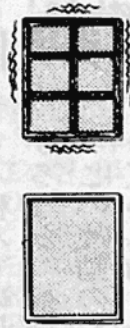
デコボコ平屋建て 125

のがコツです。

南向きに間取りの工夫を

間取りは、居間などよく使う部屋を南向きに設けます。そして北側に納戸や押入れ、通路(廊下)などを配して「空気の層」を設けますと、熱の出入りが減って暖冷房エネルギーのムダをばくすることができます。

“風吹けど、窓動ぜず”

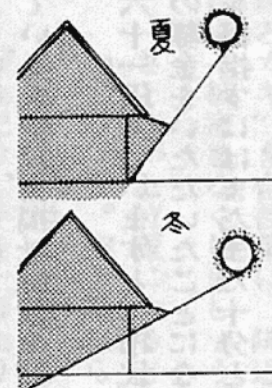


すき間風は、省エネルギーの敵と心得て、気密性のよい窓にしたものです。その点、アルミサッシにすれば、ほとんど問題はありません。

また、断熱サッシや二重サッシにすれば、熱の出入りはもちろん防音問題もかなり解決できます。

“日差し短く日もち長い”

ひさしは、夏は日差しを防ぎ、冬は陽光が十分入るような適当な長さのものにしましょう。



断熱材を利用しよう

省エネルギー住宅の「縁の下」力もち”は、なんといっても断熱材です。

床をはじめ屋根、天井、壁に断熱材を使うと、夏は熱気の侵入をくいじめ、冬は熱が屋外に逃げるのを防ぎます。

暖冷房エネルギーの節約に、断熱材を上手に利用しましょう。

“断熱材融資”実施中

断熱材の施工など、住宅の「断熱構造化」を促すため、住宅金融公庫では、断熱性について一定の基準を満たす新築および増改築住宅に対し、最高三十万円の割増融資を行っています。

詳しいことは、住宅金融公庫の業務を取り扱う金融機関へお問い合わせください。